

内容や要旨を的確にとらえる能力の育成 ー思考ツールを生かした学習プリントの工夫を通してー

白杵市立北中学校 山村 恵子

はじめに

白杵市では「子どもの学力向上は、先生の授業力向上から」を基本方針とし、授業力改善や小中連携を推進している。私のこれまでの実践を振り返ると、説明的文章の指導改善の必要性を感じていたものの、教材の内容を読み取ることに偏り、一問一答形式や講義形式の授業になりがちであった。内容や要旨を的確にとらえるための読むスキルの指導や、説明的文章の学習の目的を生徒に明示することが不十分で、どんな力を付けるために学習しているのか、生徒自身がはっきりと実感しにくい授業を行っていたという反省がある。

I 実態と研究の方向性

1 「説明的文章の読解」の実態

(1) 学校・地域の教育課題

平成25年度から平成27年度白杵市アクションプランでは、「課題解決型、活用型学習による思考力・判断力・表現力の向上」や「学校図書館活用・読書活動推進による読解力・情報活用能力の育成」に取り組んでいる。しかし、生徒の学力定着面においてまだ十分でない点も見られる。

平成26年度全国学力・学習状況調査では、白杵市の中学校は全科目の平均正答率において全国平均を下回った。国語Bの平均正答率は国語A以上に全国平均より低く、「読む能力」においては記述式、選択式問題共に全国平均との差が見られた。また、1・2年生を対象とした平成26年度白杵市基礎基本テストでは、実施4教科の全てで無解答率の高い枝間が多く見られた。以上から、既習の知識を応用する力や、自分で考えて記述する力、本文や問いを正しく読み取る力、粘り強く問題に向き合う意欲が低いと考えられる。

また、質問紙調査の結果から自己肯定感や意欲が低い生徒、家庭学習の時間が少ない生徒も多いことがわかった。地域や家庭の学習への関心や指導力が必ずしも高いとは言えず、学習に集中できていない生徒も多いと言える。

(2) 実態調査の方法と内容

説明的文章の読解における課題を明らかにするために、本校1年生65名を対象に、国語科の「読むこと」に関する意識調査と読み取りのレディネステストを実施した。調査項目や出題は、評価の観点を踏まえ『読むこと』に関する関心・意欲・態度』『読むこと』の技能に関すること」「言語についての知識・理解・技能」に沿ったものとし、国語の学習の内容、読書の内容、「読むこと」の領域における理解等について11項目にわたり質問した。レディネステストは『笑顔という魔法』（教育出版池谷裕二著）を題材に以下の出題構成で行った。

①語句の意味の理解 ②適切な接続語 ③指示語の内容把握 ④キーワードの把握 ⑤内容の展開の理解 ⑥主張の読み取り ⑦要約
--

(3) 実態調査結果からの考察

国語の学習について53%の生徒が「とても好き」「どちらかと言えば好き」と答えている。しかし、50%の生徒が「文章を読む」「読み取り」「要約」などの「読むこと」に関する困りを挙げている。また、得意なものとして説明的文章を挙げた生徒は4%しかおらず、苦手なものとして挙げた生徒は26%いた。「小説や随筆を読む」を苦手と挙げた生徒と合わせると、39%の生徒が「読むこと」の学習に苦手意識をもっていることが分かる。

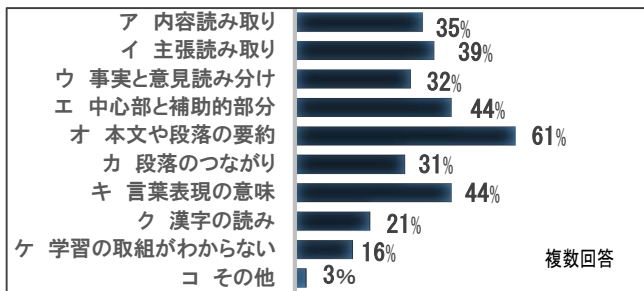
具体的な項目ごとに見ていくと、資料1-①に示すように説明的文章の学習について、多くの生徒がさまざまな項目にわたり、困難を感じていることが分かる。また、資料1-②に示すように「初めて読んだ説明的文章をどのくらい理解できるか」という質問に対して、「内容と筆者の主張が分かる」と回答した生徒は14%で、31%の生徒が「筆者の主張は分かる」、45%の生徒が「大まかな内容は分かる」と回答している。しかし、レディネステストの「本文中の筆者の主張に線を引く」という問いでは、主張のみに過不足なく線を引けた生徒は15%だけであった。更に、本文を要約する問いでは二つの笑顔の効力と筆者の主張という必須の三点を押さえて要約できた生徒はいなかった。三点のうち二点を記述した生徒は14%、いずれか一点のみ記述した生徒は39%、

付加的なその他部分を記述した生徒は32%だった。

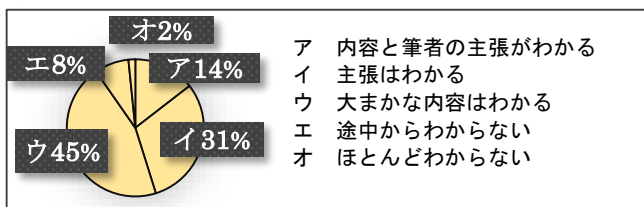
これらのことから、生徒自身が思っているほどには、「読むこと」の力が付いていないことが明確であり、ほとんどの生徒が大まかにしか内容を理解できていないと思われる。このことは、実態調査から明らかになった、テストで出題された長い文章を「最後まで読む」と答えた生徒が34%で、「読まないことがある」「読まないことが多い」と答えた生徒が66%いることとも関連していると思われる。読まない理由として、「時間が足りない」「途中でわからなくなる」「必要を感じない」等が挙げられており、読もうとする意欲はあるが、読む能力が不足していたり、長文への抵抗感やあきらめなどが意欲を阻害していたりしているのではないかと考えられる。

<資料1> 「説明的文章を読むこと」に関する実態

①説明的文章の学習で難しい、困るのはどんなことか



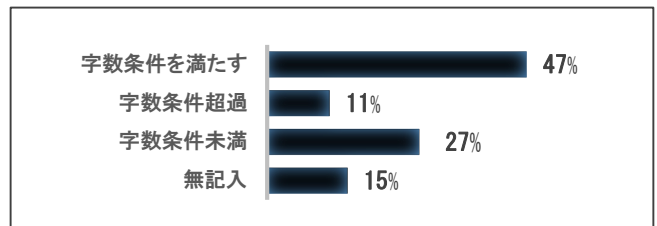
②初めて説明的文章を読んだ時にどのくらい理解できるか



更に、資料2に示すように、本文を要約する問いの記述に注目すると、字数条件を満たして記述した生徒は半数以下であった。字数条件を満たさない解答が38%、無記入が15%であった。素早く本文を通読する力が不足しているために要約を書く時間が足りなかったり、要旨をとらえきれていなかったり、書くことへの苦手意識をもっている等が原因だと思われる。

一方、説明的文章を学習することで役立つこととして「社会や自然環境に興味をもつ」「知識が増える」と、教材の内容に興味をもつことや、「長文や難文が読める」「自分でも文章構成を考えられるようになる」と、読む能力の向上を挙げた生徒も多い。「役立つ」と思っている生徒は一人もおらず、説明的文章を学習することの必然性を理解し、期待をもっていると思われる。

<資料2> 「説明的文章を読むこと」に関するテスト本文の要約 記述について



2 研究の方向性

(1) 研究課題

前述の学力調査や実態調査の結果から、生徒の説明的文章に対する苦手意識を和らげて、「難しそうだけど読んでみよう」と意欲を喚起するような指導の工夫が必要であると考えられる。その上で、ある程度の分量の文章を素早く読む力、文章の展開をとらえる力、必要な情報を素早く見付ける力、要旨を正確にとらえる力を付けることが必要だと考える。

(2) 研究課題を解決するための具体的な研究内容

上記の研究課題を解決するために、具体的にはどのような読む能力が必要かを明確にすることが肝要である。そこで、説明的文章を読むために必要な能力の分類・整理を通して、生徒が内容や要旨をとらえる際に必要な力を明らかにするために分類表を作成することにした。

この分類表を踏まえ、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付ける学習プリントを作成し、使用していく。学習プリントは、学習者の意欲を喚起し、論理的思考を促し、視覚的理解に訴えるように、思考ツールを生かして作成する。また、学習プリント使用の際は、効果的な学習形態を工夫することにした。

(3) 目指す生徒の姿

以上のことから、目指す生徒の姿を「説明的文章や新聞等の内容や要旨を的確にとらえることができる生徒」と設定し、達成できたかどうかの検証指標を以下のように定めた。

- 説明的文章を読む方法について肯定的回答80%以上。
- 「学習プリントを使用したことで説明的文章の要旨をとらえやすかった」等の学習プリントに対する肯定的回答80%以上。
- ペーパーテストでの読解（記述）の変化が見られる低得点層の生徒の10%増加。

II 読む能力の整理と学習プリントの工夫

2 思考ツールを生かした内容や要旨を的確にとらえるための学習プリントの作成・活用の工夫

1 読む能力に係る分類表の整理・作成

説明的文章の「内容や要旨を的確にとらえる能力」を育成するために必要な能力は何かを明確にするために、まず、「内容や要旨を的確にとらえる」ということを、以下のように定義した。

- ・文脈の中における語句の意味をとらえて読むことができる。
- ・文章を読んで、情報を正確に理解できる。
- ・文章構成や論理展開に沿って、内容を読み取ることができる。
- ・事実や意見等を区別して読み取ることができる。

次に、中学校1年生から3年生までの説明的文章における読む能力に係る指導事項ごとに、能力系統と生徒の具体像を分類、整理して、資料3に示す「説明的文章における読む能力に係る分類表」を作成した。作成に当たっては、中学校学習指導要領や『能力系統表』（大分県中学校国語教育研究会編）、『平成24年度版 観点別学習状況の学習基準と判定基準』（北尾倫彦監修 山本光陽・鈴木秀幸全体編集 金子守編集）等を参考にした。

作成した「説明的文章における読む能力に係る分類表」をもとに、本校1年生の抱える課題を考慮し、「内容や要旨を的確にとらえる」能力を育成するための学習プリントに必要な条件を以下のように考えた。

- ・学習者の苦手意欲を払拭し、学習意欲を喚起できる。
- ・図形が示すとおりには書き込むことで、要旨を整理できる。
- ・通読の意欲を喚起し、必然性や有益感を感じられる。
- ・視覚的に段落の関係や文章構成の理解を促す。
- ・意見交流や相互理解を助ける。
- ・本時の学習で、どんな読むスキルを身に付けたのかを生徒自身が実感できる。

これらの条件を満たすために、『シンキングツール～考えることを教えたい～』（黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕著）等を参考に、「内容や要旨を的確にとらえる」ために適切な思考スキルは何かを考えた。19種類の思考スキルの中の「構造化する」「要約する」「比較する」の3種類を使い、説明的文章の授業展開のどの場面での、

<資料3> 説明的文章における読む能力に係る分類表 中学校 第1学年（一部抜粋）

目標 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

指導事項	能力系統	生徒の具体像例
語句の意味の理解	ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。 正確に読む	○わからない語句を調べる等して、その文脈上の意味や働き・効果を考えている。 ○段落相互の関係を読む上で指示語に注意している。
文章の解釈	イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 構成	○文末表現に着目して筆者の意図を読み取る。 ○問題提起と答えの文章に着目する。 ○事実を列挙している部分とまとめている部分を区別してその関係をとらえる。
	ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 内容把握 要旨	○文章の中心的な部分と付加的な部分に注意して読む。 ○事実と筆者の考えや意見を読み分ける。 ○文章と図表の関連に注目し、内容を読み取る。 ○キーワードや中心段落に着目し、論旨をとらえる。 ○文章の中心を読み取り、要約する。
自分の考えの形成	エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。 内容吟味 考えの広がり	○説明の文章を展開する上で、図が果たしている役割をとらえ、その効果について自分の考えをもっている。 ○筆者の意見に対して、自分の感想をまとめている。
読書と情報活用	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。 情報の収集	○必要な情報を集めるために、本や新聞、インターネット等で調べようとしている。 ○自分の意見の根拠として引用している。 ○新聞の見出し等から、文章の内容を推測しながら読んでいる。

どの思考ツールの活用が効果的かを検討した。その後、指導計画を作成し、指導事項に合わせて資料4に示す要素の思考ツールを生かした学習プリントを作成した。

＜資料4＞学習プリント・プリント活用の要素

要素		プリントNo.				
		①	②	③	④	⑤
思考整理	記述整理の簡便化	○	○	○	○	○
	可視化	○	○	○	○	○
	操作化	○			○	
	共有化・相互理解	○		○	○	

Ⅲ 検証授業の実際と考察

1 検証授業の概要と検証視点

(1) 検証授業の概要

本校1年生を対象に、単元「文章の内容や要旨を的確に読み取ろう」で全7時間の検証授業を行った。本単元では『江戸っ子は何を食べていたか』（三省堂 大久保洋子監修）と、『食感のオノマトペ』（三省堂 早川文代著）を補助教材として学習することで、段階を踏まえて説明的文章を読むスキルを習得させた。

そして、活用として教科書教材の『流氷とわたしたちの暮らし』（光村図書 青田昌秋著）を学習した。『流氷とわたしたちの暮らし』は、雪氷学者によって書かれた説明的文章で、流氷とわたしたちの暮らしが密接につながっていることを、具体例を示しながら論じている。序論・本論・結論の三部構成で、中心部分とそれを支える付加的部分の関係で文章が構成されており、前時までの学習で身に付けてきた、説明的文章を読むためのスキルを活用して読むのにふさわしい教材だと考えた。課題を「流氷とわたしたちの暮らしには、どんな関係があるだろうか」と設定し、読み取らせていった。

更に発展として、『流氷とわたしたちの暮らし』と同じテーマを扱っている『雪氷から読み解く地球環境』（ScienceWindow2008年2月号掲載 荒船良孝取材／文）との読み比べをし、自分の意見を書かせる授業を行った。

(2) 学習指導計画と検証の視点

指導事項に沿って目指す生徒の姿をイメージし、資料5に示す単元構想表を作成した。この単元構想表に基づき、読む能力を習得するための学習段階を踏まえた指導計画を立てた。指導の具体的な手立てと検証の視点を以下に示す。

○思考ツールを生かした学習プリントの使用と活用法の工夫

意欲を喚起し、この学習によってどんな力を付けるのかを焦点化した思考ツールを生かした学習プリントを使用することにより、内容や要旨を的確にとらえるための読む力を習得させる。また、学習プリントを使用する際に、適宜ペア学習や班学習を取り入れることで、協力して思考を操作したり、意見を交流したりする機会を設定する。それによって本文に何度も立ち返らせたり、考えを深めたり、正解を確かめあったりできるようにする。

○検証の視点

思考ツールを生かした学習プリントを使用することは、長文を読むとする意欲を喚起し、読むスキルを身に付け、説明的文章の内容や要旨を的確にとらえるという点で効果的であったか。

2 検証授業の実際

(1) 第1時 習得「各段落内を中心部分と付加的部分に分けよう」

最初に学習計画表を使って、読む力を習得するために段階を踏まえて授業をしていくという単元の見通しを持たせた。最初の教材の『江戸っ子は何を食べていたか』の主題を確認後、キーワードを手掛かりに、各段落内の中心的な一文を各自で選ばせ、資料6に示す学習プリント①の本文に線を引かせた。その後、自分が選んだ中心的な一文を班で交流させ、班の考えとしての中心的な一文を選ばせ、ホワイトボードに一文ずつ貼らせた。

各段落1～4文なので、全員が自分の意見としてプリントに線を引くことができた。慣れない班活動で、最初は活発な意見交流とは言えなかったが、何度も本文を読み返しながらか、どの班も熱心に取り組む姿が見られた。

(2) 第2時 習得「各段落内を中心部分と付加的部分に分けよう」

前時に班で考えたものを、資料7に示すように付加的部分は切り落とさせ、中心部分だけをホワイトボードに残して貼らせ、付け足したい言葉はペンで書き込ませた。主題に沿って過不足無く中心部分を抜き出しているかを、班全員で音読して確認させた後、資料6に示した学習プリント①にまとめさせた。各段落の中心部分を接続語等を使って繋ぐと要約になることを確認し、要約することを家庭学習課題とした。

班活動では、3文節程度のまとまりを作って文の中に入れて出したりしながら考える班や、主題と照らし合わせて何度も音読して確かめる班など、2回目の班活動

<資料5> 単元構想表 目指す生徒の姿

単元構想表 (全7時間) 第1学年「読むこと」 文章の内容や要旨を的確に読み取ろう

<単元の入り口の意識>

説明的文章の学習は苦手。長い文章を読むのも面倒くさいし、難しい言葉も多い。途中で何が書いてあるかわからなくなるから、結局、筆者が何を言いたいのかもよくわからない。もっと、すいすいと説明的文章を読んで、分かるようになりたい。

単元の指導目標

文章の中心部分と付加的部分

事実と意見などの関係に注意して

内容や要旨を読み取る

第1時 第2時 「江戸っ子は何を食べていたか」〈習得〉

《単元を貫く課題》 説明的文章の内容や要旨を的確に読み取るには、どうしたらよいだろうか。

各段落内を中心部分と付加的部分に分けよう。

主題(江戸の握りずしの移り変わりの歴史)を意識して、キーワード(各種ずし)に注目して読むと、中心部分を読み取りやすかった。また、班のみなどで考えたので、自分だけでは読み取れていなかったところも班員の説明を聞いて納得した。それに、班で考えた中心部分をつないでいくと、要約になることが分かった。中心部分をつなぐだけだから、もうそんなに難しくなさそうなので、課題の要約を書いてみよう。

★学習プリント①(要約)とホワイトボード

- ・主題を意識し、キーワードに注目して中心部分を読み取る。
- ・中心部分と付加的部分に分ける。
- ・中心部分をつないで、要約を書く。
- ・班の中で自分の意見を言うために本文をよく読み、班員の意見を聞いて考えを深める。

第3時 「食感のオノマトペ」〈習得〉

段落の関係をとらえ、事実と筆者の考えに読み分けよう。

段落の書き出しにある指示語や接続詞など(「それでは」「その一つは」)に注目して読んだら、序論・本論・結論に分けるのが簡単だった。序論の四段落を中心段落や付加的段落に分けてみたら、問題提起が分かり、主題がはっきりした。また、文末表現に注目したら、事実なのか筆者の考えなのか読み分けられた。もう一度家で事実と筆者の考えを確認してみよう。

★学習プリント②(段落の書き出し)

- ・段落の書き出しに注目して、文章の構成をつかむ。
- ・中心段落と付加的段落に分ける。
- ・文末表現に注目して、事実と筆者の考えに読み分ける。

第4時 「食感のオノマトペ」〈習得〉

事実と筆者の考えを読み分け、文章全体の構成をとらえよう。

文末表現に注目したら、事実なのか筆者の考えなのか読み分けられ、事実の後に筆者の考えが書かれていることが分かった。結論部分を事実と筆者の考えに読み分けたら、筆者の主張がよく分かった。それに、序論・本論・結論をまとめたプリントを見直したら、論理の展開がよく分かった。次の文章は長いし、難しそうだから、新出漢字や言葉の予習をしておこう。

★学習プリント③(ピラミッドストラクチャー)

- ・文末表現に注目して、事実と筆者の考えに読み分ける。
- ・中心的段落の要点をつなぐと、要約になることが分かる。

第5時 「流水とわたしたちの暮らし」〈活用〉

流水とわたしたちの暮らしには、どんな関係があるだろうか。

今までよりも長い文章だし、難しい内容だったけれど、新出漢字と難しい言葉を宿題プリントで予習したので、初めて読んだけど思ったよりすらすら読めた。私は範読を聞きながら段落の書き出しに注目して読んだら、序論・本論・結論のまとまりが分かりやすかった。序論を中心段落と付加的段落に分けたら、問題提起がはっきりした。隣の席の人はキーワードに注目して本文を読み取っていた。本論から読み取ったことを魚プリントにまとめる時、いつもの国語ノートに書くよりもちょっとわくわくした。

★学習プリント④(フィッシュボーン)

★学習プリント(新出漢字 新出語句)

- ・前時までの学習で身に付けた、説明的文章を読むためのスキルを活用し、自分なりに大まかな構成をつかみ、本論の内容を読み取ろうとする。

第6時 「流水とわたしたちの暮らし」〈活用〉

流水とわたしたちの暮らしには、どんな関係があるだろうか。

本論から読み取った内容を班で交流したら、流水の働きを二つだと思う人と、三つだと思う人がいたので、みんなでもう一度教科書を読み直した。「大切な働き」「重要な役割」という言葉に注目したら、二つだということが分かった。筆者の主張にあるように、流水などの自然が私たちの生活に深く関係しており、わたしたちの暮らし方も流水に影響を与えているから、豊かな地球を守るために、身近な自然をしっかりと観察し、大切にしないといけないと思った。説明的文章の読み方が分かってきたので、次の最後の授業でどんな文章を読むのか楽しみだ。

★学習プリント④(フィッシュボーン)

- ・説明的文章を読むためのスキルを活用し、本論と結論の内容を読み取る。
- ・流水とわたしたちの暮らしは深く関係していることを理解する。

第7時 「流水とわたしたちの暮らし」「雪氷から読み解く地球環境」〈発展〉

「雪氷から読み解く地球環境」と「流水とわたしたちの暮らし」との共通点と相違点を読み取ろう。

「雪氷から読み解く地球環境」には同じ流水について書いているのに、教科書とは違う考えも書かれていて、筆者によって考え方が違うことが分かった。だけど、「自然を観察しないといけない」という筆者の主張は共通していたので、わたしも意識して自然から警告を見逃さないようにしたい。これからは、一人の人の話や一つの文章だけでなく、いろいろと読み比べて複数の視点を持つようにしよう。

★学習プリント⑤(PMI)

- ・説明的文章を読むためのスキルを活用して本文を読み、二つの文章の筆者の考えや主張の共通点と相違点を読み取って、自分の意見を書く。

<単元の出口の意識>

説明的文章をどうやって読めばよいか分かったので、前よりも読むのが速くなって、内容も分るようになったと思う。問題提起、本論の内容、筆者の主張の読み取り方が分ったし、筆者の主張は文章の最後に書いていることが多いのも分ったので、これからはあきらめずに最後まで文章を読みたいと思う。

<資料6>学習プリント① (要約)

文章の内容や要旨を的確に読み取る① 中心部分と付加的な部分

A 各段落の中心となる一文に線を引きましょう。

『江戸の子は何を食べていたか』より

大久保洋子監修

① 江戸の子はいえは江戸前、江戸前といえは江戸と「握りし」は切り離さない関係にある、意外にもその歴史は浅い。

② 初めて現れたのは文化・文政期といわれており、それまでは江戸でも「なれずし」や「押しずし」を食べていた。

③ そもそも日本におけるすしの歴史は大変古く、箱の伝来とともに伝わり始めた「なれずし」が最初といわれている。飯は入るものでなかった。

④ それが「文政時代」になると、開いた魚に飯をつめて二週間から一月間漬ける「なれずし」が作られるようになる。飯も箱と一緒に食べるようになり、漬け込み期間もだいたい二週間といわれる。

⑤ それ「江戸で」は「江戸」の生なれずしが一般的だったが、江戸の方では「押しずし」といわれるすしが伝わっている。

⑥ いれば飯のなかから酢の味付けをしてしまうので、できあがり前「なれずし」は「押しずし」と呼ばれた。屋台店などでも売られるようになった。

⑦ 「なれずし」といっても、箱に入れて押し時間は必要となる。それをもうと早く、箸の前で出すと出さないが「なれずし」で箸案されたのが「押しずし」なのである。

B 班で話し合った各段落の中心部分を書いてみましょう。

※すしの名前も書く

すし	中心となる部分	36
①段落	江戸の「握りずし」の歴史は浅い。	16
②段落	文化・文政期までは「なれずし」や「押しずし」も食べていた。	34
③段落	すしの歴史は大変古く、箱の伝来とともに伝わり始めた「なれずし」が最初といわれている。	41
④段落	室町時代になると、二週間から一月間漬ける「なれずし」が作られるようになる。	37
⑤段落	これが早く漬けるので、「押しずし」が作られる。呼ばれ、屋台店などで売られるようになる。	37
⑥段落	それとも、早く漬けるので、箸の前で出すと出さないが「なれずし」で箸案されたのが「押しずし」なのである。	36

C 要約してきましょう。

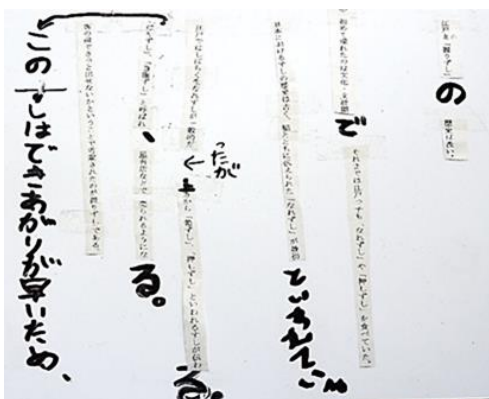
る	考	子	「	戸	れ、	期	い	佐	歴	「	文	江
る	案	れ	当	で	こ	間	う	え	史	押	化	戸
。	さ	も	座	は	れ	清	や	ら	は	し	・	の
。	れ	と	す	早	が	け	が	た	大	ず	文	「
。	た	早	し	く	て	込	て	「	変	し	政	握
。	の	く	を	作	空	む	て	な	古	し	期	り
。	が	く	歴	れ	室	わ	な	れ	く	を	ま	ず
。	握	屋	代	な	町	「	水	ず	し	箱	で	し
。	り	台										

まとめ

○主語とキーワードに注目して
○中心部を読み分ける。
○中心部をまとめたのが要約。

なので、どの班も活発に意見を出し合って取り組んでいた。生徒の感想にも「中心部をつなげると要約になることがわかった。接続語などを使って、うまくまとめた」「中心部と付加的部分に分けるのがおもしろかったです。今日の授業をして要約をすることが好きになりました。次の授業が楽しみです」「できたのを先生に音読して聞いてもらい、アドバイスをもらうことで、自分も読み返すとおかしな点に気付くことができ修正できた。そしてちゃんと要約できた」とあり、苦手意識をもつ生徒にも取り組みやすそうであった。

<資料7>ホワイトボードを使った班での要約



(3) 第3時 習得「段落の関係をとらえ、事実と筆者の考えに読み分けよう」

資料8に示すように、二つ目の教材である『食感のオノマトペ』を、学習プリント②を使って段落の書き出しに注目して読ませ、大まかな文章構成をつかませた。その後、序論を中心段落と付加的段落に分けさせた。

生徒の感想に「段落のはじめの文をみるだけで話の流れがわかりました。これはテストのときにも使えるなと思いました」とあり、ほとんどの生徒が各段落の書き出しにある指示語や接続詞などに注目して、序論・本論・結論に分けることができていた。また、前時までの学習をもとに、序論の中から具体的な例が書かれている部分を付加的部分と見分けることができていた。

<資料8>学習プリント② (段落の書き出し部分)

各段落の書き出しに注目して、読み分けてみましょう。

89

① 二つ目は、

② これは、

③ 文化は、

④ 文化は、

⑤ 文化は、

⑥ 文化は、

⑦ 文化は、

⑧ 文化は、

⑨ 文化は、

⑩ 文化は、

⑪ 文化は、

⑫ 文化は、

⑬ 文化は、

⑭ 文化は、

⑮ 文化は、

⑯ 文化は、

⑰ 文化は、

⑱ 文化は、

⑲ 文化は、

⑳ 文化は、

㉑ 文化は、

㉒ 文化は、

㉓ 文化は、

㉔ 文化は、

㉕ 文化は、

㉖ 文化は、

㉗ 文化は、

㉘ 文化は、

㉙ 文化は、

㉚ 文化は、

㉛ 文化は、

㉜ 文化は、

㉝ 文化は、

㉞ 文化は、

㉟ 文化は、

㊱ 文化は、

㊲ 文化は、

㊳ 文化は、

㊴ 文化は、

㊵ 文化は、

㊶ 文化は、

㊷ 文化は、

㊸ 文化は、

㊹ 文化は、

㊺ 文化は、

㊻ 文化は、

㊼ 文化は、

㊽ 文化は、

㊾ 文化は、

㊿ 文化は、

(4) 第4時 習得「事実と筆者の考えを読み分け、文章全体の構成をとらえよう」

前時に分けた本論部分を、文末表現に注目して事実と筆者の考えに読み分けさせ、各段落の中心部分を資料9に示す学習プリント③に記入させた。本論の中心部分と段落の関係を全員で確認したあと、結論の中心部分をまとめさせた。最後に各段落の関係や序論・本論・結論という構成を整理することで論理の展開を確認させた。資料9に示すように、学習プリント③の本論部分を記入し終えた時点で生徒から「事実と筆者の考えが順番になってる」と声があがった。また、最後の段落が、問題提起の『食感のオノマトペ』とはなんだろうか』に呼応していることに気づき、「最後が答えなんや」という発言が出るなど、ほとんどの生徒が筆者の主張を読み取って線を引いていた。自分が記入した学習プリント③を見て、視覚的に構成を理解できていることが、授業中の様子や、振り返りの「文の構成が一番分かりました。序論→本論→結論、問題提起→事実→考え→主張というのがはっきり分かったので覚えておきたいです」「事実と筆者の考えが交互にあって、そのあとに筆者の主張があることがわかった」という感想から分かった。また、「みんな大事なところを読み取るのがうまくなっていると思った」

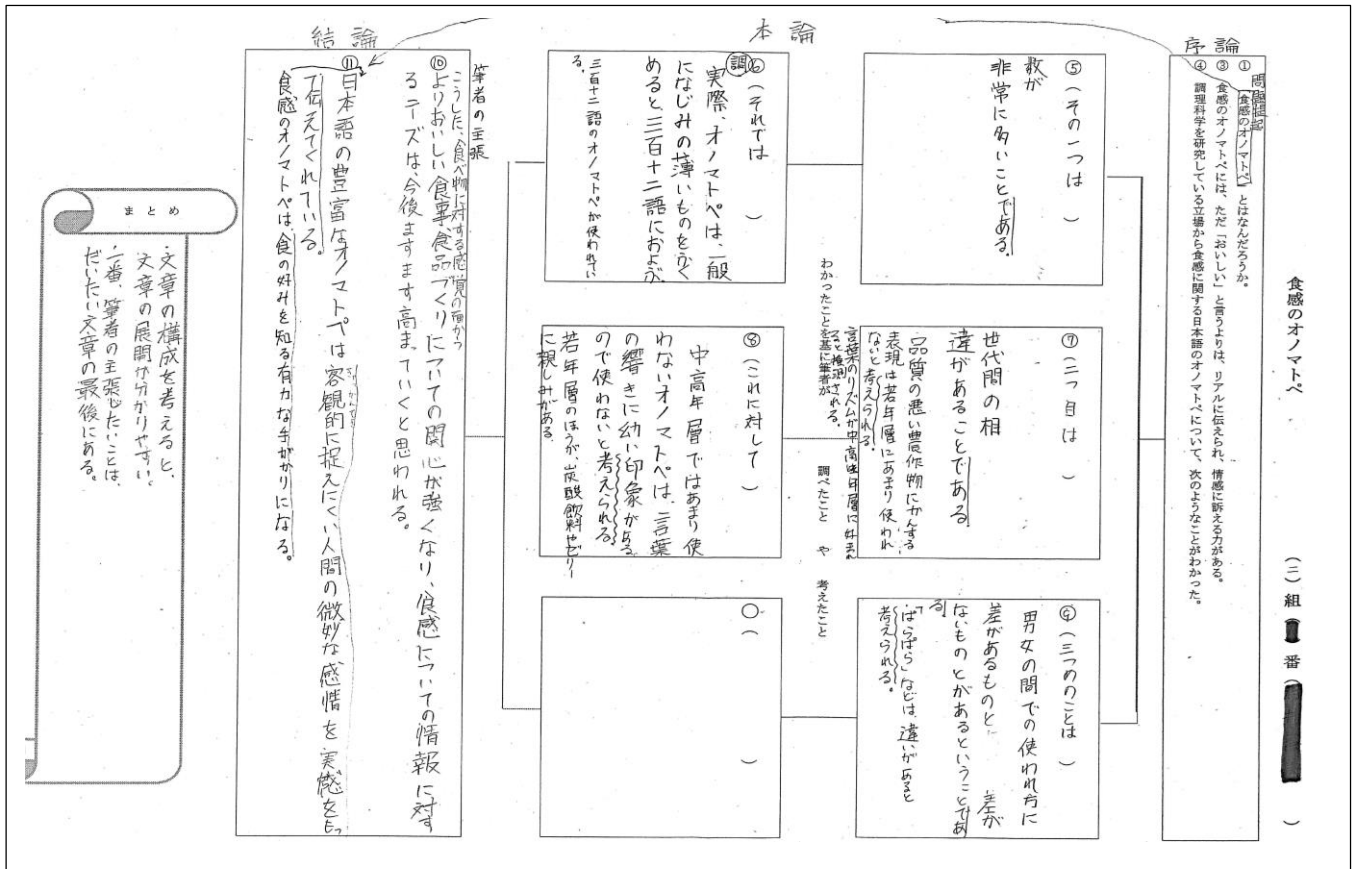
「はじめは、本論を読むのはとてもむずかしかったけど、なれたらかんたんにわかった。わかるようになって、国語が好きになった」等の感想も見られた。

(5) 第5時 活用「流水とわたしたちの暮らしには、どんな関係があるだろうか」

第4時まで学習した説明的文章を読むスキルを各自で選択させ、練習の成果を「試す場」と位置付けて、三つ目の教材を読ませた。序論・本論・結論に分けさせた後、資料10に示す学習プリント④に本論を内容ごとにまとめさせた。

生徒の感想に「各段落の書き出しに注目して文章を読めたので、主題についてきちんとまとめるのを次はがんばりたい」「私は文末に注目して読み取ると、最後の段落⑭⑮の部分が筆者の考えが多かったのに気付くことができました」「教科書に○や線などをひいて、指示語や接続詞などに気付くことができ、全体の構成をつかむことができました」等あり、それぞれが各スキルを使って、集中して内容や構成を読み取ろうとする姿が見られた。序論と本論を分ける時には、段落の書き出しに注目して読んだ生徒が発表し、本論と結論を分ける時には、文末に注目して読んだ生徒が発表した。また、問題提起の一

<資料9>学習プリント③ (ピラミッドストラクチャー)



<資料10>学習プリント④ (フィッシュボーン)

地球のエアコン

① 序論
 ① 重要なこと
 ② 大切な働き
 ③ 大切な働き
 ④ 流氷はわたしたちの暮らしにも深く関わっている。

本論
 ① 地球には多様な生命が、大気、海洋、大地のなかで暮らしている。
 ② 大気の大循環
 ③ 熱帯と極地の温度差によって大気の大循環が生まれる。
 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

結論
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

流氷減少のきざし
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

海を豊かにする (食料資源)
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

文を探す際には、前時の『食感のオノマトペ』で問題提起を間違えた生徒が「題名と同じだから、この文だと思います」と発表し、「オノマトペでしたことが今日できた。国語が楽しく思えてきた」と感想に書いていた。

(6) 第6時 活用「流氷とわたしたちの暮らしには、どんな関係があるだろうか」

前時に各自でまとめた本論を班で交流することで、「流氷とわたしたちの暮らしにはどんな関係があるか」を読み取らせた。本論には二つの流氷の働きと一つの現象が書かれているが、流氷の働きを三つだと思っている生徒が多かったので、キーワードや指示語に注目させ、班で見直しをさせた。全員で本論の内容を整理・確認した後、結論部分をまとめさせ、筆者の主張を読み取らせた。最後に論理の展開を確認させた。

感想に「本文をコンパクトにまとめたので、コンパクトすぎて重要な所がないことがあった。班の人や、班以外の人意見を聞いて、確かにと納得することができました」とあるように、各班とも活発に意見交流しながら、各自でまとめた本論を、流氷の働きが分かるように書き直していた。その際、教科書を音読しながら、指示語や接続語、キーワードを手掛かりとして中心部分を見直していく姿が見られた。結論部分をまとめる際は、

指示しなくても、まず教科書に線を引ながら段落内の各文を取捨選択し、それからプリントに中心部分を記入してまとめることができていた。「授業のたびに、長文の中心部分だけを残し、最短文にまとめるのが上手くなってきているのではないかと思います」と、手ごたえや自信を感じている感想も見られた。

(7) 第7時 発展「共通点と相違点を読み取ろう」

発展学習として、『流氷とわたしたちの暮らし』と『雪氷から読み解く地球環境』を読み比べさせた。筆者の考えや主張に注目させ、資料11に示す学習プリント⑤に共通点と相違点をまとめさせ、自分の意見を書かせた。生徒は今までの学習で身に付けた読み方のスキルを活用して、段落の書き出しやキーセンテンスに線を引ながら、各自の読み方で読み進めていた。全員が最後まで読み通すことができ、「同じようなことを書いているのに、相違点がいくつかあることにびっくりしました。筆者の考えや、文章の読み方について学ぶことができ、知らないことを知れました」という感想も見られた。

しかし、「筆者の考えや主張」に注目させる指示が曖昧だったため、例示されている現象の相違点を比べる生徒や、キーパラグラフに気付いていながら、そこから一歩踏み込んだ読みにはつながらない生徒が多かった。

<資料 11> 学習プリント⑤ (PMI)

2つの文章を読んだ感想を書きましょう。

も	因	大	ど	や	
あ	だ	車	エ	ず	異
る	ど	か	な	。	常
と	い	ら	こ	ど	気
見	う	出	と	ち	象
う	こ	る	な	ら	の
の	と	か	の	原	を
ど	を	ソ	だ	文	因
見	知	リ	と	章	が
つ	と	や	う	も	た
け	ハ	エ	こ	書	ち
て	ま	ア	ど	か	の
ハ	サ	コ	が	れ	活
ハ	。	ン	分	て	動
た	自	も	か	ハ	に
ら	分	地	リ	た	あ
ど	に	球	ま	こ	る
見	ど	温	し	と	と
ハ	ま	暖	た	ハ	球
ま	る	化	。	の	う
す	こ	の	ど	こ	暖
。	と	原		と	化

相違点	共通点
<ul style="list-style-type: none"> よかれと思われている対策が逆効果になる 雪と氷を調べることでオオキナクとなる 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化や異常気象は地球自身の持つ長期変動に由来している。 海水や氷河、雪などは白いため太陽の光をよく反射する 地球温暖化や異常気象、私たち人間の活動に由来している。 海水や氷河の面積の減少が注目されている

文章の内容や要旨を的確に読み取ろう⑥
共通点と相違点を読み取ろう 一年(一)組 ()番 ()

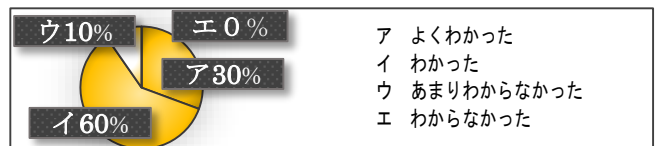
3 考察

毎時間この授業でどんな力を付けるのかを焦点化し、段階を踏んだ授業を行ったことで、説明的文章に苦手意識をもつ生徒も取り組みやすそうだった。第5時の感想に「今日のはすこしむずかしかった。わからないところもあったけど、いろいろ考えたりするのがとても楽しかったし、国語がおもしろいとおもえた」という記述が見られた。前時に身に付けた読むスキルを次時にすぐ使えることや、複数の説明的文章で論理展開のパターンを学んだことによって、力が付いてきていることを生徒自身が自覚できているようだった。

9項目にわたり質問した事後意識調査では、資料12-①に示すように、「今回の学習で説明的文章の読み方が以前よりも分かるようになりましたか」という質問に90%の生徒が肯定的回答をしている。更に資料12-②に示すように、説明的文章の学習について、できるようになったことと、苦手項目を克服したいという今後の学習についての意欲的な感想が多く見られた。

<資料 12> 「説明的文章を読むこと」に関する事後意識調査

①説明的文章の読み方が以前よりも分かるようになったか



②「読むこと」の学習に関する生徒感想

- ・題と同じことを書いているのがとても大切ということがわかりました。どこらへんがキーワードかな、主題かなと考えて探せるようになりました。各段落の書き出しに注目したりと、説明文を読みとくコツがわかりました。
- ・難しい問題もあきらめずに解けるようになりました。
- ・前は理解できなかったけど、中心的部分を読み取る方法を教えてもらったので、長い文章も読むのが楽しくなりました。
- ・読み取りなどがわかりました。今後いろんな場面で使っていきたいです。
- ・色々学習したけど中心的部分、付加的部分がわかり文末などで内容を読み取れるようになった。

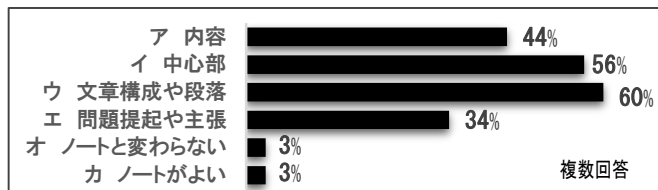
思考ツールを生かした学習プリントの使用・活用により、困難を感じていた学習項目が一つずつできるようになったことで苦手意識を和らげることができたようだ。資料13-①の分析から、事後調査の「学習プリントの使用でわかりやすかったことは何ですか」という質問に、

97%の生徒がわかりやすかった項目を複数選択している。各学習プリントで何を学ぶかが明確で、どんな力が付いているのかを生徒自身が自覚しやすかったことが要因だと思われる。「ノートがよい」と回答した3%の生徒は、わかりやすかった項目も選択した上で、「ノートの方が後で見直しやすい」という理由を挙げていた。

更に、資料13-②～④に示す生徒の感想の分析や検証授業を観察した本校国語科教員への聞き取りから、資料4に示した学習プリント・プリント活用の要素が、効果的に機能していたことが推察される。思考ツールの要素を取り入れた学習プリントであるため、従来の説明的文章の学習に比べ、生徒は記述が簡便で、内容整理が容易になり、要旨の把握が進んだと思われる。記述後は1枚のプリント内に要旨が整理されているために、視覚的にも文章構成や論理展開の理解を促すことができた。また、班学習による操作活動や意見交流をしたことで、生徒同士の気付きが生まれ、内容の理解を深めるとともに、自分の意見やもっている技能を他の生徒と交流することは有益であることを実感させることができた。

<資料 13> 「説明的文章を読むこと」に関する事後調査

①学習プリントの使用でわかりやすかったこと



②学習プリントに関する生徒の感想

- 『江戸っ子』の時のプリントは、文章がきれいに分かれていて、分けるのがやりやすかった。(可視化・記述整理の簡便化)
- 『オノマトペ』プリントは1枚なので段落の書き出しがわかりやすかった。(可視化・記述整理の簡便化)
- 『オノマトペ』プリントは序論と本論と結論が区別されて、一目見てすぐに内容が分かり、理解しやすかった。(可視化)
- お魚の形をしたプリントは、序論・本論・結論がどこになって、そこに何が入るのがよく分かった。だんだん骨についていくかんじがよかったし、まとめるとき書きやすかった。もう少し文を短くまとめられたら良かった。(可視化・記述整理の簡便化)
- 学習プリントがあると、すぐに考えをかけるし、ヒントみたいなものもあから分かりやすかった。宿題で一人でするときも、プリントにどのようなことを書けばいいか分かった。(記述整理の簡便化)
- 「何をする」かがプリントでわかりやすかったし、プリントにヒントがあるからよかった。(記述整理の簡便化)
- ノートの記述がいつも遅いので、プリントで助かった。ノートだったら問いまでは書かないので。(記述整理の簡便化)

③学習プリントの活用に関する生徒の感想

- 班で話し合いのときボードをつかってわかりやすかったです。これからもボードをふやしたらいいと思う。(可視化・操作化・共有化・相互理解)
- 個人で考えた後に班で話し合うことで、いろんな意見を自分の中に取り入れることができた。(共有化・相互理解)

④学習プリントの使用・活用に関する本校国語科教員への聞き取り

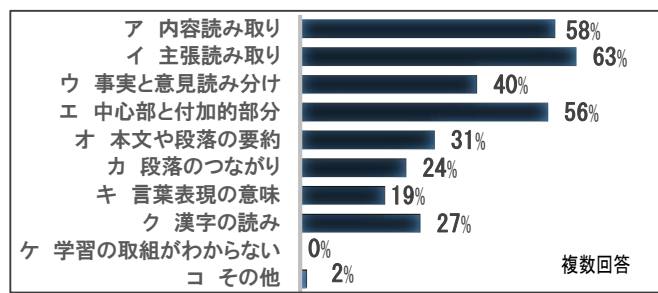
- 普段ノートを取るのが困難な生徒も、どこに何を書くのが明確なので、学習プリントに記入できていた。(記述整理の簡便化)
- 学習プリントに、要旨を丁寧にまとめていた。班学習の際もキーワードや本文の記述を手掛かりにして、意見を出し合って要約していた。(記述整理の簡便化・可視化・共有化・相互理解・操作化)
- 以前は話し合いに参加できなかった生徒も、自分の学習プリントの記述をもとに発言できていた。意見交流により理解が進んだ生徒もいて、班内で考えを確かめ合うのは有効だと思った。(可視化・共有化・相互理解)

また、資料14-①の分析から、98%の生徒が「以前よりもできるようになったこと」を平均3項目以上挙げていることが分かる。事前の実態調査で「学習の取組がわからない」を選択した16%の生徒は0%になった。「その他」を選択した1人も、できるようになった項目も選択した上で、「その他」の項目に「だけど途中からわからなくなる」と記入しており、できるようになったことがあるという実感がうかがえた。資料14-②に示すように、「どのくらい理解できるようになったか」という質問では事前調査よりも20%増加の34%の生徒が「内容と筆者の主張が分かる」を選択しており、「途中からわからない」は6%減少し、「どんなことが書いてあるかわからない」は0%になった。

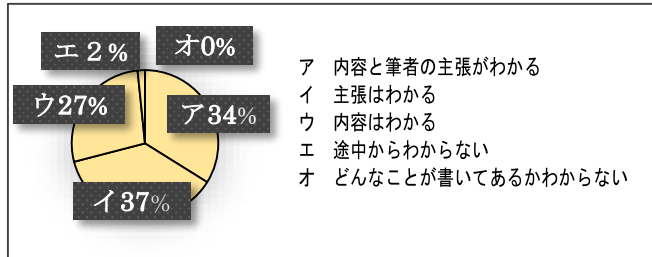
単元最後の第7時では、資料11に示した学習プリント⑤の生徒記述に代表されるように、読むスキルを習得し、『雪氷から読み解く地球環境』の内容と筆者の考えを読み取れていることがわかる。『流氷とわたしたちの暮らし』と比較し、自分の知識と関連付け、論理的に因果関係を押さえて、考えを組み立てられるようになっている。

<資料 14> 「説明的文章を読むこと」に関する事後調査

①以前よりもできるようになったこと



②どのくらい理解できるようになったか



更に、『ハチドリ不思議』（東京書籍 日高敏隆著）を題材として以下の出題構成で「説明的文章を読むこと」に関する事後テストを実施した。

- ①適切な接続語 ③指示語の内容把握 ④キーワードの把握
- ⑤内容の展開の理解 ⑥要約 ⑦主張を考えて書く

生徒の感想に「テストでつかえる説明的文章の読みかたや、ときかたがわかったので、とてもよかった」という記述があり、資料15-①②に示すように、実際にテストの本文を読み取るためにキーワードやキーセンテンス、段落の書き出し等に注目して読み進めるためのスキルの活用（線や囲み等）が見られた。事前の「説明的文章を読むこと」に関するレディネステストでは、本文を読み取るための活用が見られた生徒は27%であったが、事後テストでは63%の生徒の解答用紙に活用が見られた。今回の検証授業で習得した説明的文章を読むスキルを、早速活用して読もうとした生徒の意欲が感じられた。

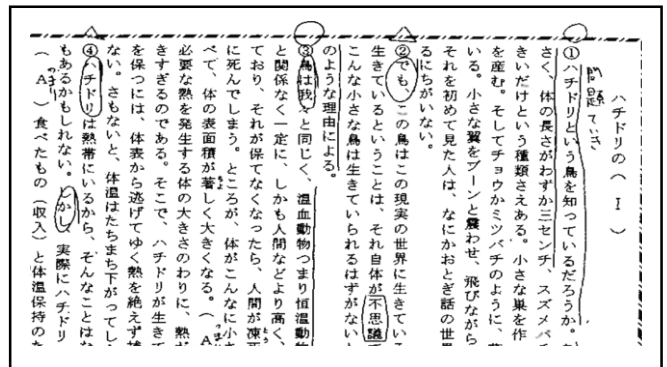
具体的な項目ごとに見ていくと、指示語の内容理解を確認する問では正答率は91%で、事前調査より30%増加している。また、この『ハチドリ不思議』には筆者の主張が明記されていないので、「筆者の主張を代わりに二文で書きましょう」という問いに、66%の生徒がハチドリ生態をまとめた一文と、環境破壊に対する警告や、自然環境を守ることの大切さなどの読者への訴えを組み合わせで記述していた。

要約問題では、検証授業前は正答率0%だったが、授業後は29%（記述不十分を含む）に増加した。資料15-③に示すように44%だった有効解答率は74%に増加し、無記入率は15%から3%に減少した。更に、1学期期末考査国語科における偏差値50未満の生徒32人を対象に、要約問題における記述状況を追跡調査した結果、資料15-④のように18人（学年全体の29%）の生徒に記述改善が見られた。

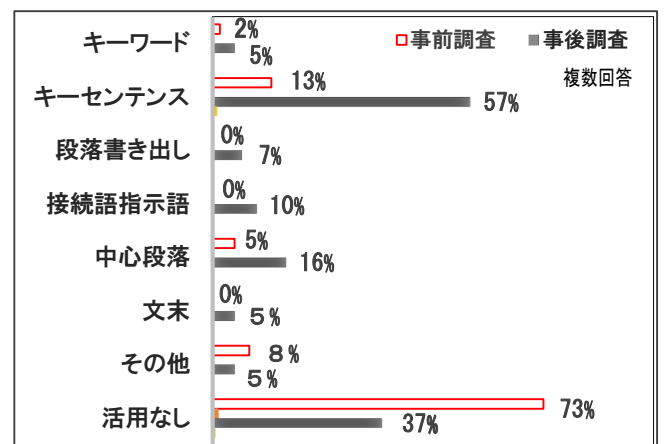
これらのことから、思考ツールを生かした学習プリントの使用・活用により意欲が喚起された生徒が増加し、「内容や要旨を的確にとらえる」能力を育成できたことが確認できる。

<資料15>「説明的文章を読むこと」に関する事後テスト

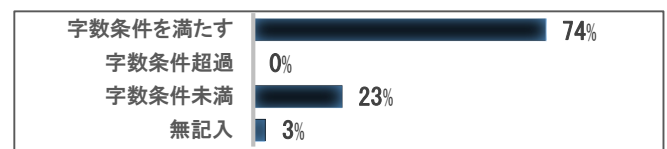
①生徒の解答用紙（一部抜粋）



②テストに出題された本文の読み方について



③本文の要約 記述について



④本文の要約における追跡調査（対象32人）

	事前調査	事後調査	記述改善生徒	合計
字数条件を満たす	11人	20人	9人	18人
字数条件超過	3人	0人	3人	
字数条件未済	11人	10人	1人	
無記入	7人	2人	5人	

IV 成果と課題

1 読む能力に係る分類表の整理・作成の有効性

「説明的文章における読む能力に係る分類表」を作成したことにより、生徒の発達段階を踏まえた学習の系統性を私自身が確認することができた。また、具体的に身に付けるべき能力の育成を目指して、各授業での目指す

姿を生徒の言葉で描いた単元構想表を作成でき、重点的指導事項を明確にすることができた。そして、段階的に学ぶことによって、読む能力が付いてきていることを生徒自身が自覚できた結果、生徒の学習意欲を喚起し、説明的文章の学習に関心を持たせることができた。

検証指標の「説明的文章を読む方法について肯定的回答80%以上」を事後調査で達成しており、読む能力に係る分類表の整理・作成は有効であった。

2 思考ツールを生かした学習プリントの使用と活用法の工夫の有効性

「Ⅲ検証授業の実際と考察における3考察」で前述したように、授業中の観察や、各学習プリントの記述、生徒の感想、事後調査から生徒の変容が見られ、意欲面、読む能力面で思考ツールを生かした学習プリントの使用と活用の有効性を確認することができた。

検証指標の「学習プリントに対する肯定的回答80%以上」と「ペーパーテストでの読解（記述）の変化が見られる低得点層の生徒の10%増加」も事後調査で達成している。

以上から、思考ツールを生かした学習プリントを作成・使用し、活用したことは、本校1年生の説明的文章の学習における意欲を喚起し、読むスキルを身に付け、「内容や要旨を的確にとらえる」能力の育成に有効であった。

3 課題

本研究を通して、まず、生徒自身が学びながら成長していることを自覚できるような、単元構成の工夫や、意図をもって教育課程を編成する必要性を感じた。

「思考ツールを生かした学習プリント」については、より有効的なスキルやツール、国語科での活用場面を研究する必要がある。その上で、支援を必要とする生徒へのプリントや、「書く欄をもう少し大きくしてほしい」等の生徒からの要望を取り入れながら学習プリントの改善を行っていききたい。「活用法の工夫」としては、生徒が自分で思考する時間、班で意見交流する時間を十分に確保した授業改善を進める必要性を感じた。

4 還元計画

来年度は、授業改善の推進や、「説明的文章における読む能力に係る分類表」の配布など、校内や白杵市中学校国語部会において研究成果と授業改善の普及に努めた。また、「説明的文章における読む能力に係る分類表」

を更に具体化し、充実させるとともに、小学校6年間の「説明的文章における読む能力に係る分類表」の整理・作成を行い、小中連携の一環として義務教育9年間を見通した国語科の指導を行いたい。

おわりに

情報化社会と呼ばれる時代に生まれた中学生は、溢れるほどの情報に大きな影響を受けている。多すぎる情報から自分に必要なものを正しく取捨選択し、それを整理・吟味・利用することができる力がこれからますます求められる。そのため、「読む能力」が不可欠であり、社会生活を円滑に、豊かに送るために「読むこと」は必要な行為である。だからこそ、生徒にもっと「読む能力」を付けたい、読む面白さを感じて欲しいと思い、本研究に取り組んだ。

今回は「読むこと」に焦点化して研究を進めたが、国語科の「思考力・判断力・表現力」は、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の3領域を関連させながら高めてこそ付けられるものである。今後、「読むこと」で得た知識を整理・吟味し、自分の考えを形成する材料として活用し、それを表現できる能力を育成していきたい。そのためにも「書くこと」「話すこと・聞くこと」の授業でも思考ツールを生かした学習プリントを作成、活用し、生徒の「わかった、できた」の顔をもっと見たいと思う。

＜参考文献＞

- 大分県中学校国語教育研究会編 「能力系統表」 2006
荒船良孝 「ScienceWindow 2008年2月号 『雪氷から読み解く地球環境』
独立行政法人科学技術振興機構 2008
河野庸介 「新学習指導要領の指導事例中学校国語科重点指導事項の実践開発」
明治図書 2009
日高敏隆 「新編新しい国語1 『ハチドリ不思議』 東京書籍 平成22年度
北尾倫彦監修 山本光陽 鈴木秀幸全体編集 金子守編集
「平成24年度版観点別学習状況の学習基準と判定基準」
図書文化社 2011
池谷裕二 「中学校国語1 伝え合う言葉 『笑顔という魔法』
教育出版 平成24年度
大久保洋子監修 「中学生の国語 学びを広げる一年 資料編『江戸っ子は何を食べていたか』 三省堂 平成24年度
早川文代 「中学生の国語一年 『食感のオノマトペ』 三省堂 平成24年度
青田昌秋 「国語1 『流氷とわたしたちの暮らし』 光村図書 平成24年度
文部科学省 中学校学習指導要領解説国語編 東洋館出版社 平成25年
田村学 黒上晴夫著 滋賀大学教育学部附属中学校編
「こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール」 小学館 2014
関西大学初等部 横山駿也 「思考ツールを使う授業 関大初等部式思考力育成法
(教科活用編)」 株式会社さくら社 2014
黒上晴夫 小島亜華里 泰山裕 「シンキングツール～考えることを教えたい～」
NPO法人学習創造フォーラム (ネット上で参照)